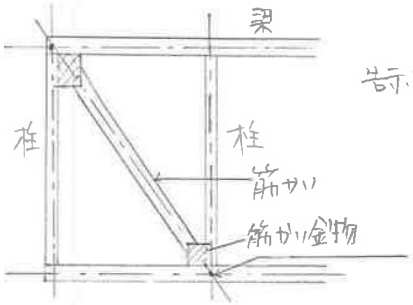
平成28年No.9 木造軸組工法の建築物

1. 筋かいの端部 → 壁倍率に応じて金物等で柱梁仕口部に緊結し、各材の軸線を一点で交わるようにする
2. 心材と辺材 → 辺材より心材の方が耐朽性に優れており土台に適している
3. 小屋組の振れ止め → 構造計算により省略可能
4. 柱の切り欠き → 所要断面積の1/3以上を切り取る場合にはその部分を補強しなければならない

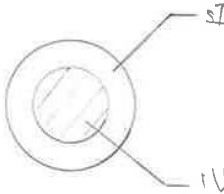
◎ 筋かいの端部 → 令45条3項 柱と梁との仕口部にボルト、かすがい、くぎ金物等で緊結しなければならない



告示1460号 壁倍率に応じ必要とされる金物及びくぎ等の本数が規定されている

柱梁筋かい各材の軸線がなるべく一点で交わるようにする

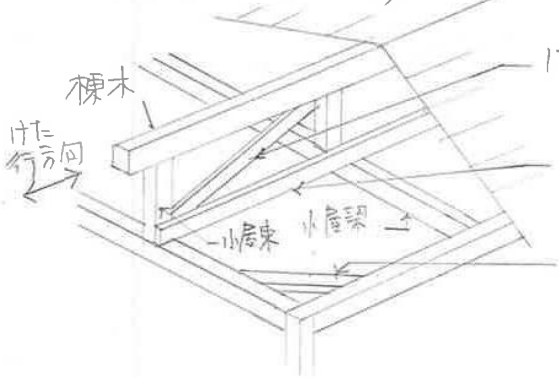
◎ 心材と辺材



辺材(白太) 周辺の白っぽい部分
- 生きた細胞
- 水分が多い
- 心材と比べて腐朽しやすい

心材(赤身) 中心部の赤色っぽい部分
- 死んだ細胞
- 水分が少ない
- 耐朽性がある

◎ 小屋組の振れ止め → 令46条3項



- けた筋かい(小屋組がけた行方向に倒れるのを防ぐ)
- 振れ止め(小屋束脚部をつなぐ水平部材)
- 火打材(床組、小屋梁組などの水平構面の変形が過大になるのを防ぐ)

構造計算により省略可能

◎ 柱の切り欠き → 令43条4項 所要断面積の1/3以上を欠き取る場合は、その部分を補強しなければならない